

# 人口減少・地域活性化対策特別委員会資料

令和元年5月28日（火）

## 総 合 政 策 部

---

### 目 次

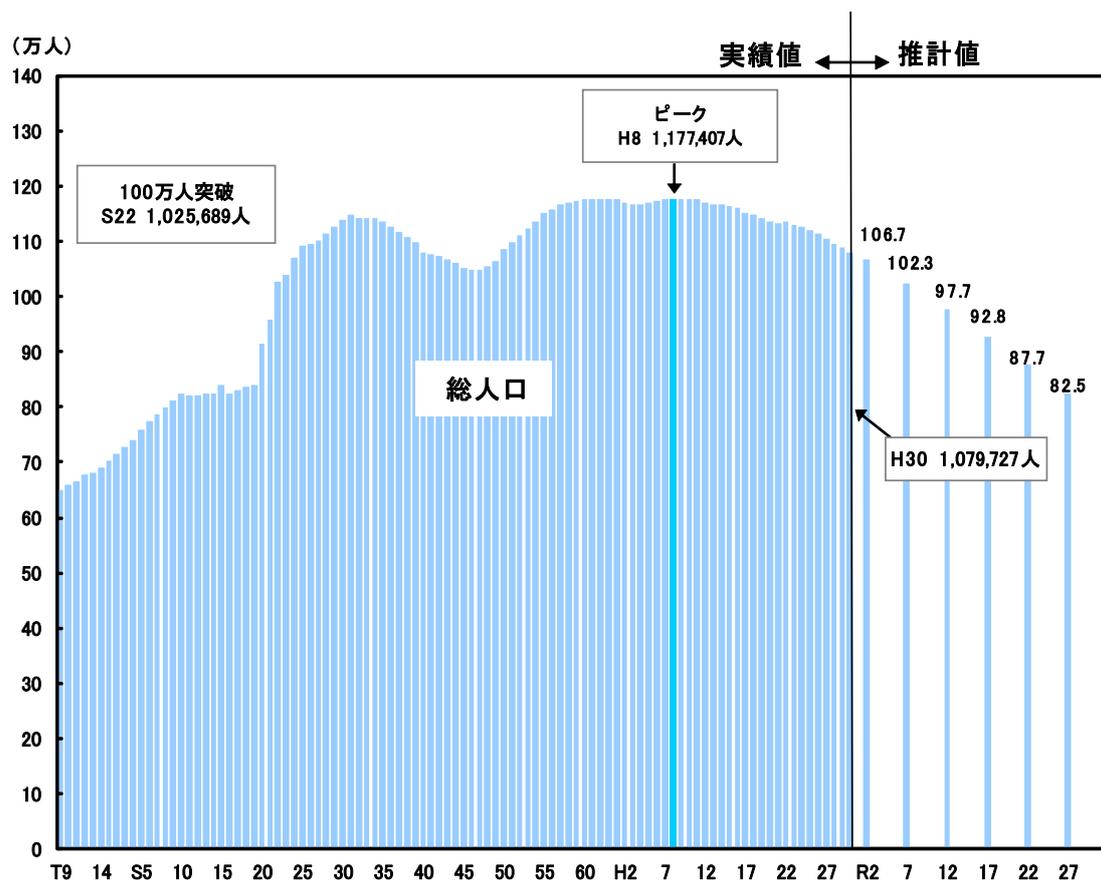
- 宮崎県の人口の推移と将来推計について ..... 1
- 本県の人口減少の課題 ..... 6
- 中山間地域対策について ..... 8

# 宮崎県の人口の推移と将来推計について

統計調査課

## 1 人口の推移(将来推計を含む)

図1 本県人口の推移

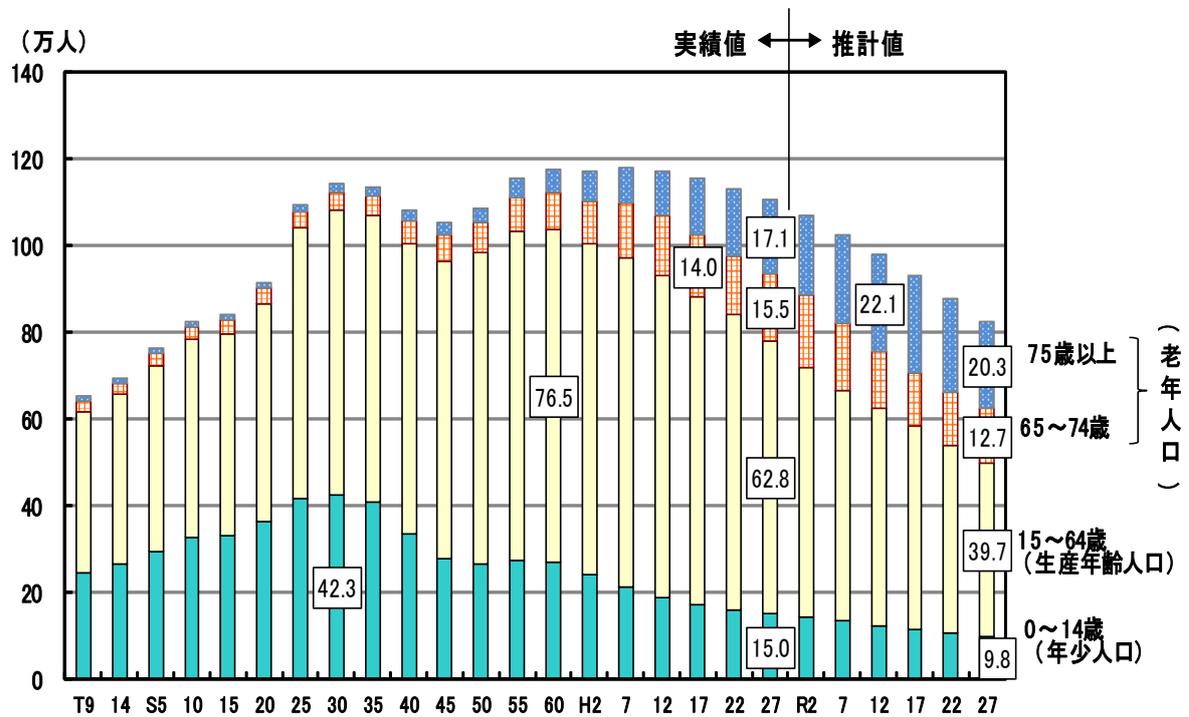


注：各年10月1日現在の人口

資料：国勢調査の年(昭和20年以外の平成27年までの表記年及び昭和22年)は総務省「国勢調査」  
 その他の年は昭和34年以前は総務省「人口推計」、36年以降は県統計調査課「宮崎県現住人口調査」、  
 令和2年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30.3推計)」

## 2 年齢別人口の推移（将来推計を含む）

図2 年齢区分別人口（実数）の推移



資料：平成27年までは総務省「国勢調査」（ただし、昭和20年は「人口調査」）  
 令和2年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（H30.3推計）」

### 3 人口動態の推移

#### (1) 社会動態

図3 社会動態の推移

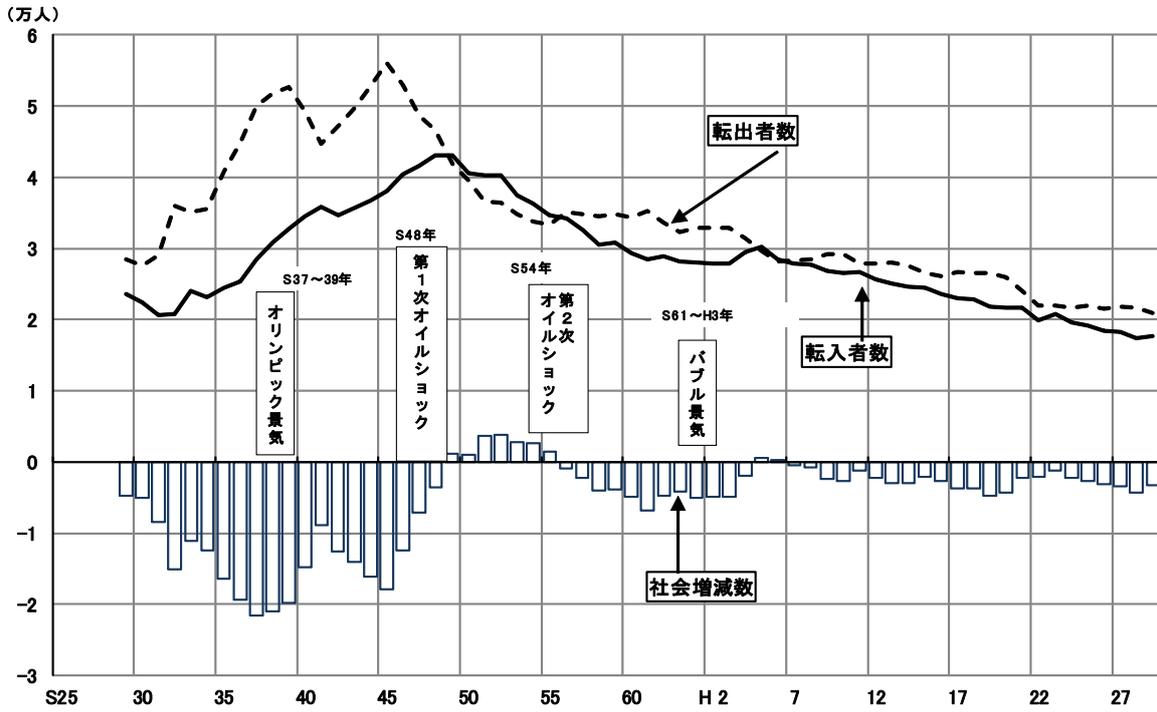
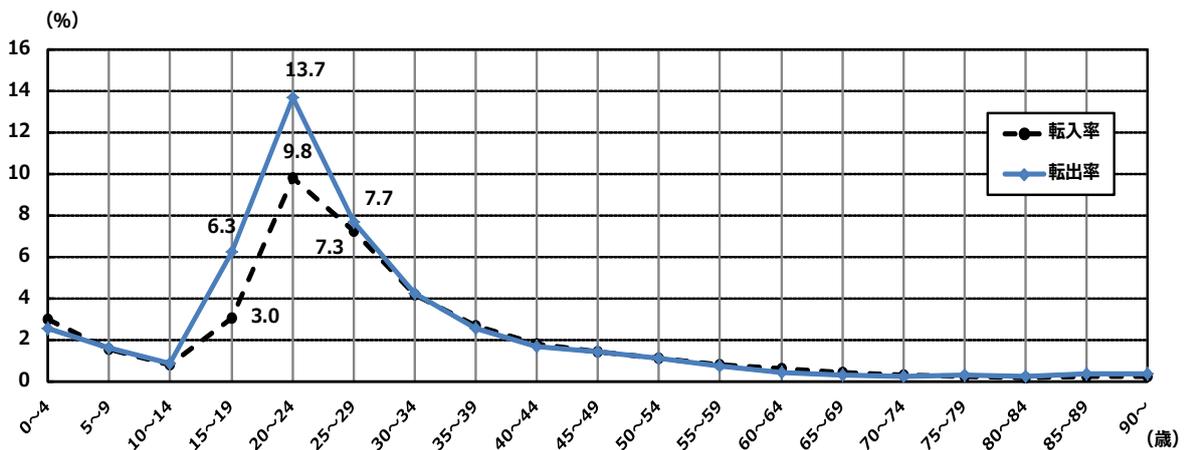


図4 年齢5歳階級別転入・転出率

(平成29年10月1日から平成30年9月30日までの1年間)



(例)

$$20\sim24\text{歳の転入率} = \frac{\text{平成29年10月1日から平成30年9月30日まで1年間の20\sim24歳の県外転入者数}}{\text{平成29年10月1日現在の20\sim24歳人口}} \times 100$$

$$20\sim24\text{歳の転出率} = \frac{\text{平成29年10月1日から平成30年9月30日まで1年間の20\sim24歳の県外転出者数}}{\text{平成29年10月1日現在の20\sim24歳人口}} \times 100$$

資料:宮崎県統計調査課「宮崎県現住人口調査」

(2) 自然動態

図5 自然動態の推移

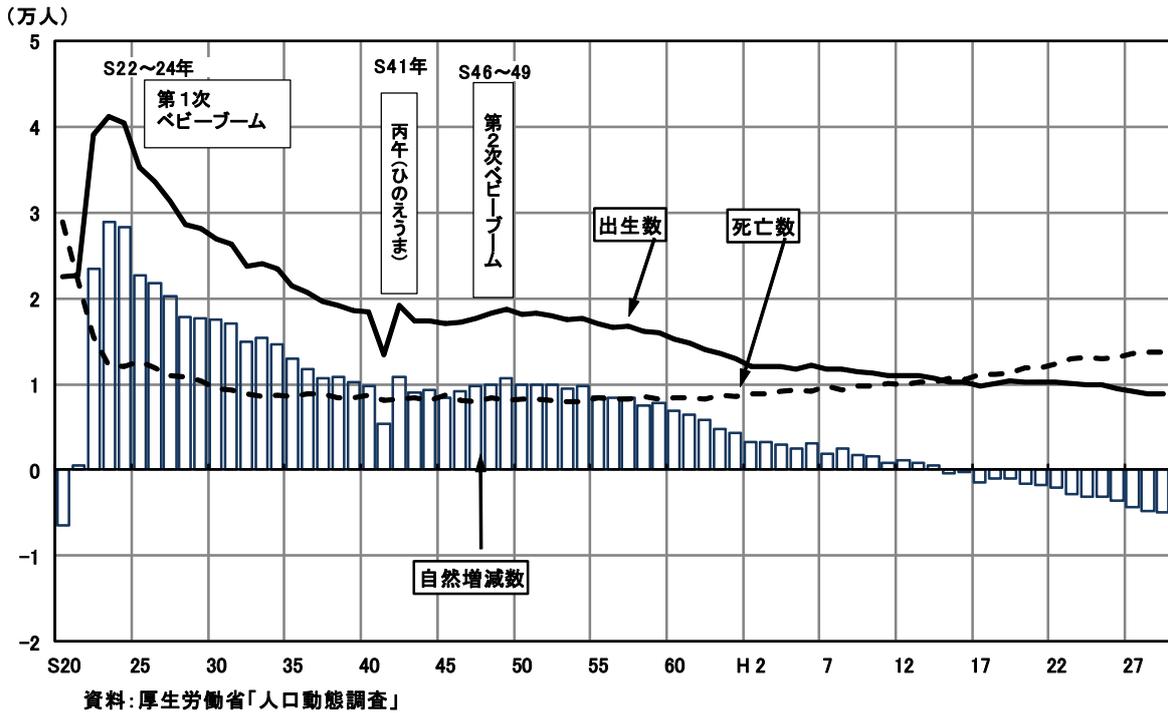


図6 合計特殊出生率の推移(将来推計を含む)

(※)合計特殊出生率=15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

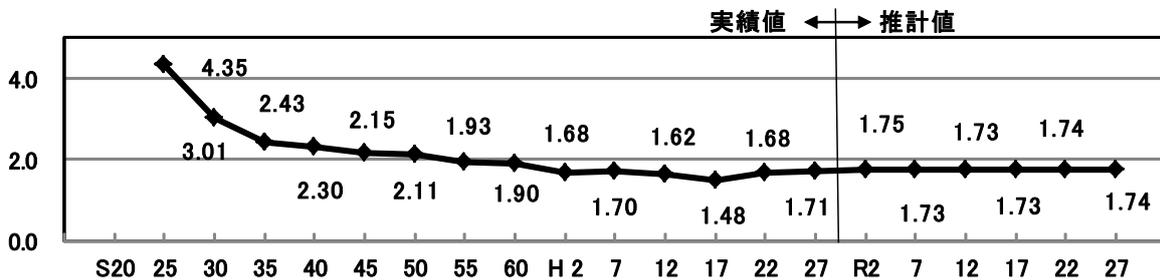
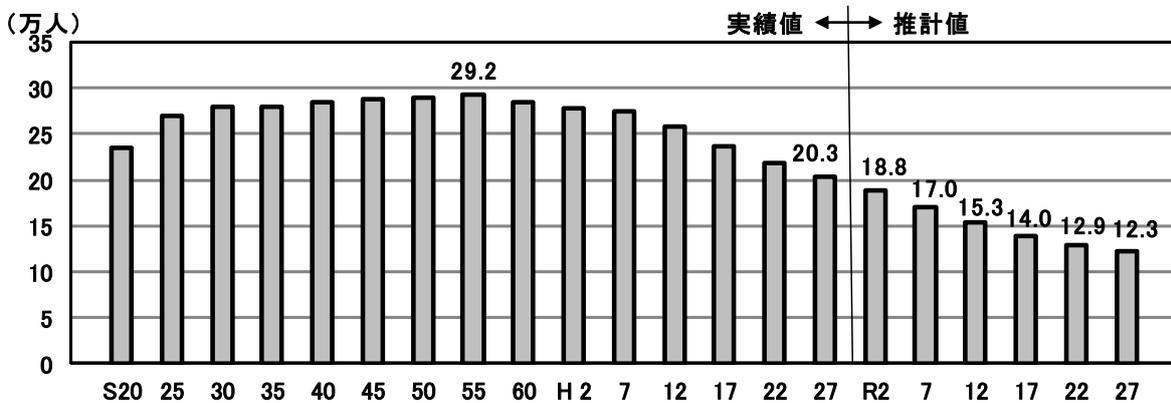


図7 15歳から49歳までの女性人口の推移(将来推計を含む)



## (参考) 市町村別人口の推移(将来推計を含む)

※( )内は県人口に占める割合を表す

	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2025年 (令和7年)	2035年 (令和17年)	2045年 (令和27年)	2045年人口の 対2015年比
全国	128,057,352	127,094,745	122,544,103	115,215,698	106,421,185	83.7
宮崎県	1,135,233	1,104,069	1,023,170	928,034	824,806	74.7
<b>宮崎東諸県</b>	<b>428,716</b> (37.8%)	<b>428,089</b> (38.8%)	<b>418,724</b> (40.9%)	<b>398,878</b> (43.0%)	<b>370,939</b> (45.0%)	<b>86.6</b>
宮崎市	400,583	401,138	394,839	378,275	353,770	88.2
国富町	20,909	19,606	16,874	14,134	11,253	57.4
綾町	7,224	7,345	7,011	6,469	5,916	80.5
<b>南那珂</b>	<b>78,142</b> (6.9%)	<b>72,869</b> (6.6%)	<b>61,857</b> (6.0%)	<b>51,090</b> (5.5%)	<b>40,924</b> (5.0%)	<b>56.2</b>
日南市	57,689	54,090	46,562	38,981	31,695	58.6
串間市	20,453	18,779	15,295	12,109	9,229	49.1
<b>北諸県</b>	<b>194,402</b> (17.1%)	<b>190,433</b> (17.2%)	<b>178,295</b> (17.4%)	<b>163,862</b> (17.7%)	<b>148,646</b> (18.0%)	<b>78.1</b>
都城市	169,602	165,029	152,757	139,295	125,496	76.0
三股町	24,800	25,404	25,538	24,567	23,150	91.1
<b>西諸県</b>	<b>79,876</b> (7.0%)	<b>75,059</b> (6.8%)	<b>65,109</b> (6.4%)	<b>55,273</b> (6.0%)	<b>45,775</b> (5.5%)	<b>61.0</b>
小林市	48,270	46,221	41,482	36,414	31,308	67.7
えびの市	21,606	19,538	15,765	12,344	9,247	47.3
高原町	10,000	9,300	7,862	6,515	5,220	56.1
<b>西都・児湯</b>	<b>107,003</b> (9.4%)	<b>101,901</b> (9.2%)	<b>89,951</b> (8.8%)	<b>77,218</b> (8.3%)	<b>64,303</b> (7.8%)	<b>63.1</b>
西都市	32,614	30,683	26,378	22,079	17,797	58.0
高鍋町	21,733	21,025	19,199	17,155	15,081	71.7
新富町	18,092	17,373	15,564	13,569	11,421	65.7
西米良村	1,241	1,089	855	685	566	52.0
木城町	5,177	5,231	4,769	4,245	3,725	71.2
川南町	17,009	16,109	14,131	12,007	9,794	60.8
都農町	11,137	10,391	9,055	7,478	5,919	57.0
<b>東臼杵</b>	<b>224,481</b> (19.8%)	<b>215,130</b> (19.5%)	<b>192,632</b> (18.8%)	<b>168,552</b> (18.2%)	<b>144,235</b> (17.5%)	<b>67.0</b>
延岡市	131,182	125,159	111,312	96,820	82,423	65.9
日向市	63,223	61,761	57,324	51,704	45,498	73.7
門川町	18,854	18,183	16,363	14,343	12,266	67.5
諸塚村	1,882	1,739	1,288	939	667	38.4
椎葉村	3,092	2,808	2,160	1,621	1,191	42.4
美郷町	6,248	5,480	4,185	3,125	2,190	40.0
<b>西臼杵</b>	<b>22,613</b> (2.0%)	<b>20,588</b> (1.9%)	<b>16,602</b> (1.6%)	<b>13,161</b> (1.4%)	<b>9,984</b> (1.2%)	<b>48.5</b>
高千穂町	13,723	12,755	10,674	8,735	6,865	53.8
日之影町	4,463	3,946	2,942	2,183	1,540	39.0
五ヶ瀬町	4,427	3,887	2,986	2,243	1,579	40.6

注 :各年10月1日現在の人口

資料:平成27年までは総務省「国勢調査」

令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30.3推計)」

# 本県の人口減少の課題

総合政策課

## 1 人口問題を取り巻く状況

### ①自然減と社会減の同時進行による人口減少の加速

- 出生数の減少と死亡数の増加(自然減)が続いている (自然増減 : H30 △5, 412)
- 進学・就職時に多くの若者の県外流出が続いている (社会増減 : H30 △2, 905)

### ②地域を支える担い手の不足

- 地域経済や産業振興を担う人財の不足
- 特に人口減少が著しい中山間地域では、暮らしに必要なサービスの維持も困難
- 将来を担う人財育成の必要性

### ③超高齢社会への対応

- 高齢者が活躍できる社会づくり
- 医療・介護等のセーフティネットづくり

## 2 取り組むべき課題

### ①若者にとって魅力ある産業・雇用の創出と、戦略的な移住・定住の促進

→ 産業や雇用環境、多彩な地域資源の魅力を高め、積極的に情報発信

### ②誰もが希望を持って子どもを産み育てられる環境づくり

→ 仕事と生活の調和や子育ての不安・負担の軽減等

### ③人口減少の著しい中山間地域における対策

→ 集落間のネットワーク化と相互の連携・補完による地域の暮らしを守る仕組みづくり

### ④学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

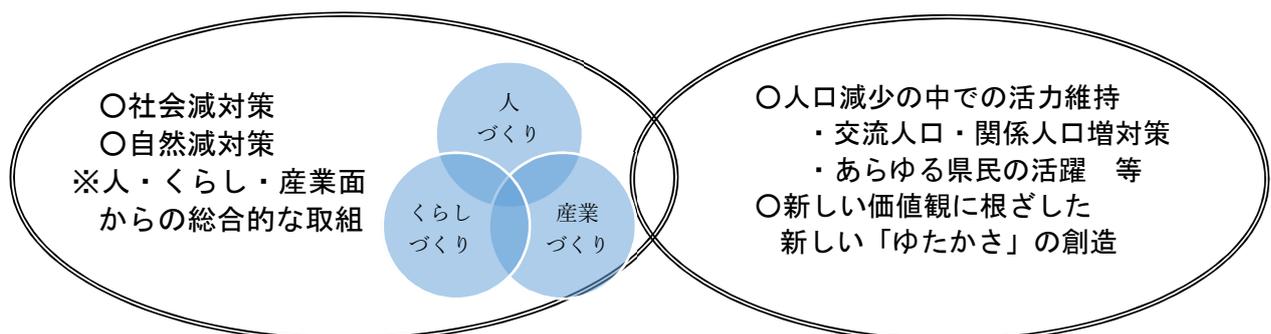
→ 基礎学力に加え、地域への愛着やグローバルな視野を持った子どもたちの育成

### ⑤産学官の連携による地域や産業を支える人財の育成・確保

→ キャリア教育や高等教育の充実、生涯学習の推進など、ライフステージに応じた切れ目のない学びの場の提供

## 3 目指す姿～人口減少が進む中であっても活力が維持される地域づくり

- 社会減対策、自然減対策による人口減少の抑制
- 交流人口・関係人口の創出や移住・定住の促進
- 本県の産業や暮らしの未来を支える人財の育成 など







## 2 これまでの取組

### (1) 中山間地域振興計画

宮崎県中山間地域振興条例に基づき、本県の中山間地域の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、宮崎県中山間地域振興計画を策定し、全庁的に中山間地域対策に取り組んできた。

#### 中山間地域振興計画（平成27年度～平成30年度）

##### 重点施策

- (1) 仕事がある中山間地域づくり  
農林水産業の振興、新たな産業の創造等、鳥獣被害対策、  
地域経済循環の促進
- (2) 子育て環境等の整備と移住・定住の促進  
子育て支援等の充実、教育の充実等、戦略的な移住・定住の促進
- (3) 集落の維持・活性化と新たな絆の創造等  
自主的な活力の向上、都市等との交流・地域間連携の促進、小規模・  
高齢化した集落対策、人財の育成・誘致、地域文化の保存・継承と活用
- (4) 安全・安心な暮らしの確保  
医療の確保及び保健福祉の充実、生活機能の維持・確保、水道の整備  
及び水環境の保全、情報通信基盤の充実及び利活用の促進、防災・  
減災対策の推進等

### (2) 上記計画期間における成果

#### ○ 移住世帯数の増

全域が中山間地域の18市町村における移住世帯数

年度	H26	H27	H28	H29
世帯数（世帯）	39	88	170	185

#### ○ 鳥獣被害額の減少

県内の鳥獣被害額

年度	H26	H27	H28	H29
鳥獣被害額（千円）	701,202	622,776	458,915	398,540

#### ○ 高速道路の開通

平成27年4月 九州中央自動車道（北方延岡道路）「蔵田～北方」間4.6km

平成30年3月 東九州自動車道「日南北郷～日南東郷」間9.0km

平成30年11月 九州中央自動車道（高千穂日之影道路）  
「雲海橋交差点～日之影深角IC」間2.8km

#### ○ 世界ブランド

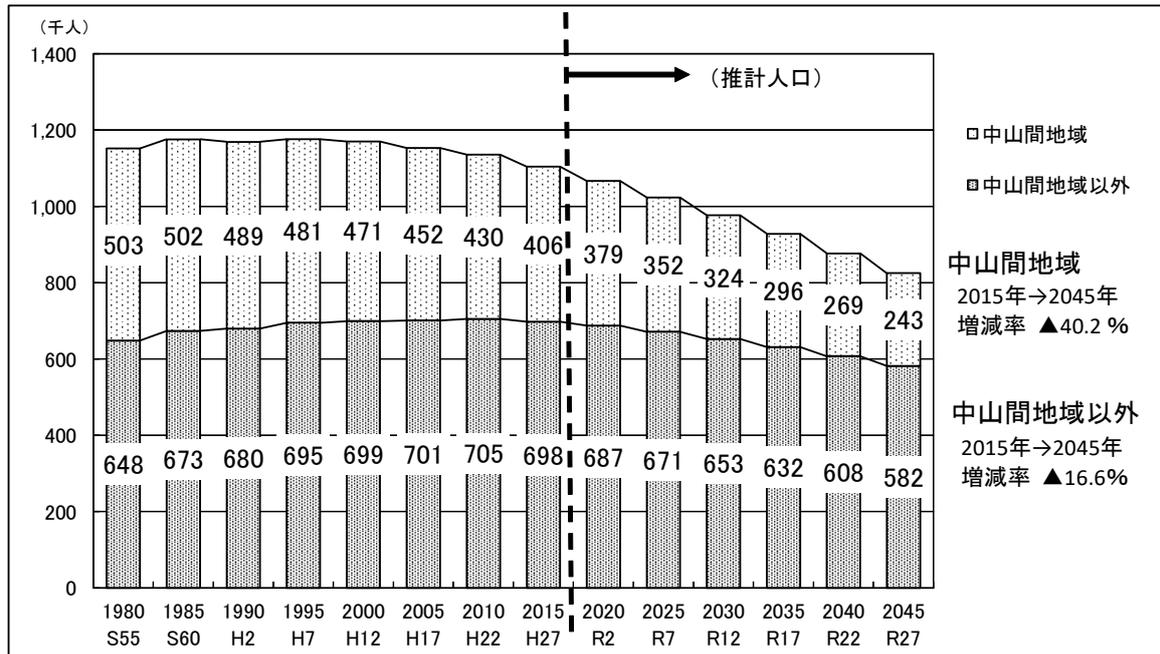
平成27年12月 高千穂郷・椎葉山地域が世界農業遺産認定

平成29年6月 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録決定

本計画については、急速な人口減少から生じるさまざまな課題に対応する施策に重点化した計画（計画期間：令和元年度～令和4年度）へ変更する議案を6月定例議会に提出予定。

### 3 中山間地域における人口の推移・将来推計

本県の中山間地域の人口は、昭和55(1980)年から減少が続いており、将来推計においても平成27(2015)年に対し令和27(2045)年は約4割の人口減が見込まれる。



### 4 課題と取組の方向性

#### (1) 人口減少による地域活力の減退

急速な人口減少や少子高齢化に伴い、地域の活力が失われる恐れがあり、将来に対する不安につながっている。

西米良村、日之影町、五ヶ瀬町等では、65歳以上の人口も減少に転じている。

⇒ 若者の県外流出の抑制、U I J ターン希望者の呼び込み、子どもを生き育てやすい環境づくり等

#### (2) 暮らしを支える基盤の弱体化

人口減少に伴い市場規模が縮小し、商店やガソリンスタンド、交通・物流、金融、医療・介護等、生活に必要な機能やサービスを担ってきた事業者の撤退が進み、安心・安全な暮らしを支える基盤の弱体化が懸念される。

⇒ 多様な主体（地域住民や企業、NPOなど）がそれぞれの役割の中で連携・協働しながら複数の集落を交通・物流のネットワークで結ぶことで圏域全体の生活を守る仕組みづくり

#### (3) 産業や地域活動の承継が困難化

中山間地域の主要産業である農林水産業をはじめとして、担い手不足がより顕著となり、地域で引き継がれてきた産業や地域活動・伝統芸能の承継が困難になる恐れがある。

⇒ 担い手の確保や事業承継の取組、地域資源や新たな技術の活用等